

仕事はよこせで越年

岩田秀一編

年末に暴動が起こったのは、この昭和三八年一月三十一日と、センターの中央詰所が焼き打ちされた昭和四五年の一月三〇日の二回です。後者の方は覚えていられる人も多いかと思いますが。冬というのは、毎度のことながら厳しいわけで、昨年よりは今年が、昨年よりはおとしが、という比較はあっても、いやなものです。仕事さえあれば、と思うのは人情です。

ここ五年ばかり、センターの西裏の公園でテント村がありました。今年も去年の騒ぎで市と警察が態度を硬化させてテント一枚張ることができないようです。そして多くの仲間が死んでいっているようです。

テントといえば、昭和三六年の第一次暴動の前に、三角公園で救世軍が行政の協力のもとにテントを張ったことがあるらしいと聞きます。それも結局は、付近の商店街などから苦情がでて取りはらわれたか、張ることすら

できなかったらしいとのことですが（この話をくわしく御存知の方は御連絡下さい）。

それ、正月がくるのはわかっているのだから準備しなかつたことの責任はいく分かあります。だけどそれが言えるのも健康なりちだけ。そしてそれ以上の責任を行政に対して追求することの根拠はいくらでもあるのです。

昭和三六年の大暴動は、おいら達にとってやればできる、やれば少しは良くなるという教訓を残しました。その後も三八年の五月、そしてこの暴動へと続いていくのです。当時は無料宿泊所のあるセンターを警察がわりとやっていたようですが、今の更生相談所がやっていることと比べてみて、五十歩百歩、十年一昔という感じです。どこも変わってないなあ、ということはこの暴動を報道した当時の新聞記事を読めばわかります。このままでいくと、そのうち……ということになるでしょうね。

△午前七時一五分▽ 大阪市西成区東四条三の五〇、旧

大阪府労働部西成分室前の広場で西成労働福祉センターの職員が労働者の仕事をあつせん中、求人最終のた民間会社の小型トラックが七人の労働者を乗せ出発しようとしたところ、まわりにはいた労働者約五十人が車をかこみ「おれたちにも仕事をくれ」と車をゆさぶった。車は労働者をふりほどくようにして立ち去ったが、仕事にあぶれた労働者約二千人が「仕事をくれ」と騒いだ。現場付近を警戒中の西成署員と同センター職員がなだめたが騒ぎは大きくなる一方で、広場前を通る自動車を止めたり、石を拾って投げはじめた。

(読売一日朝刊)

西成署は全署員に非常招集、機動隊の出動を要請

△同七時二〇分▽ 同広場前をアベック客を乗せて通り

かかった東住吉区平野野堂町四四三、平野交通タクシー酒井弘之運転手(二四)を一四、五人の労働者がストップさせ四、五人が車の天井やボンネットにあがったり、こどもの頭ぐらにある石を投げつけ前後のガラスをメチャメチャにこわし車輪の空気を抜くなどして暴れた。

続いて難波発住之江行市バス(新原光雄運転手)

に襲いかかり、バスは投石で出入口の窓ガラスをこわされ、乗客の西成区千本通三の一三、喫茶店店員中川富貴子さん(二五)は下あごに石があたって一ヶ月の重傷。浪速区北高岸町八木津運送店のトラックの寄留千代治運転手(三九)もフロントガラスをこわされ右手に十日間の裂傷を負った。さらにタクシー一台、トラック一台、西成署パトカー一台計六台の自動車が襲われた。

また広場前の自動車工場から労働者数人がガソリンをひたした布きれに火をつけ道路にまきちらしたので車が通れなくなった。

(読売一日朝刊)

△七時四五分▽ 府警本部は三時間霞町交差点と四条交差点間五百メートルの市道尼崎一平野線を交通し断、阿倍野橋一阿倍野斎場一四条交差点一花園町交差点でかこまれた区域で九時まで交通規制を実施した。

△八時▽ ヘルメットを持った機動隊二個中隊百五十人、西成署員百人の警官隊が出動、投石していた住所不定、日雇山×利×(二六)ら六人を公務執行妨害、器物損壊で逮捕。

(読売一日朝刊)

△午後六時▽ いったん解散した労働者たち約二百人は、十人が同署前から去らないので機動隊が警戒。旧分室前に集まり四ヶ所でたき火をはじめ、通りかかった乗用車五台と市バス一台に投石した。

(読売一日朝刊)
西成署はふたたび警官二百人を動員警戒にあたるるとともに機動隊四個中隊(四百人)を天王寺公園に待機させた。

警官隊に追われた約百人は同分室前から東約六百メートルの東田町一、大一バチンコ店前に集まり、こんどは同店へ投石、二階窓ガラスを割り「燃やせ」と氣勢をあげた。同署は投石した住所不定日雇労働者×川×弘(二五)と、同×田×三(二五)を逮捕した。(読売一日朝刊)

△同九時一五分▽ 労働者二百人が西成署に「正月三日のヤドを世話してくれ」とおしかけた。(労働者約二百人が西成署におしかけ「宿を世話してほしい」でなければ「テントを張って年を越させてくれ」と要求して押問答をくりかえした。朝日一日朝刊)代表三人が玉垣署長と会い、同署長から、「ほんとうに困っているなら世話する。あした元日にはつきりした人数を調べるより」といわれ、なっとくしたが、なお三

十人が同署前から去らないので機動隊が警戒。

△十時四〇分▽ 同区東四条の南海電車高架下付近で通りかかった乗用車が石をぶつけられ、うしろの窓ガラスがめっちゃめっちゃにこわされた。(朝日一日朝刊)

△午前〇時▽ 労働者たちも散って機動隊もひきあげた。(朝日一日朝刊)

△一月一日▽ 投石騒ぎで九人の検挙者を出して越年した釜ヶ崎は年があらたまるとウソのように平穩にかえり「釜ヶ崎銀座」とよばれる西成署前の大通りは晴れ着をきた親子連れや一ぱいきげんの労働者たちでにぎわった。△午前八時▽ 西成署へ「仕事のない正月三日の宿を世話してほしい」と労働者六十人がおしかけた。同署は「困っている人だけ相談にのる」と個々に事情を聞き、八人を都島区東野田町六「救世軍無料宿泊所」へ、三十二人を港区二条通「浪速寮」、二十人を同区八幡屋町「みなと宿泊所」へあずけた。

△午後六時▽ 労働者約五十人がきたので同じように西成区今船町五「大阪自きょう館」へ三十四人をあつせんとしたほか救世軍無料宿泊所へ五人、浪速寮へ六人計百五人を世話した。救世軍無料宿泊所は一泊だけだが

他の宿泊所は三が日、三食つき。

労働者たちは毎年お正月には同署へ宿泊所の世話を持ちこみ、昨年は三が日で四百五十人をあつせんしているが、ことしは投石騒ぎの直後なので警察も低姿勢。「金を持っているものや酔っぱらいは遠慮してもらったが、文句をいう人もなかった。話せばわかるのだが……」と係員はいつていた。(読売三日朝刊)

釜ヶ崎の労働者の就労あつせんは西成労働福祉センターが府労働部西成分室の業務を受けついでやっていたが、年内の就労あつせんはいったん三十日で打ち切り、一月四日から再開することになっていた。しかしその間も求人があれば受け付けることしており、この日も午前六時ごろから約千人が集まっていた。そこへ九件、百三十九人の求人があり、センターであつせんしたが、これにあぶれた労働者たちが騒いだもの。(朝日一日朝刊)

次号予告

特集

かんごく

監獄―法律では、刑務所も、拘留所も留置所も監獄である。

かごいぬにあ、E話、おもしろい話、なんでも投稿して下さい。

西成署に関する話 大歓迎

★大阪市西成区救済会館ヨリ6/15

釜ヶ崎新聞、労働者接しへ

※ かんごく特集以外の投稿もかんごくにします。右記の住所へ